

死亡交通事故 多発!!

平成3年中に起きた白根警察署管内の交通事故の状況がまとまりました。件数、死者、負傷者数とも若干前年を下回りましたが、死亡事故はすべて市内で起きたものです。今年も、既に昨年を上回る6人が交通事故の犠牲となっています。これ以上の犠牲者を出すわけにはいきません。運転者一人ひとりが思いやりの心を持ち、安全運転に努めましょう。



飲酒運転で 3人が死亡

平成3年中に白根警察署管内で発生した交通事故は、発生件数、死者数、負傷者数ともに二年に比べ若干減少しました。市内で発生した事故も同様に減少したものの、死亡事故はいずれも市内で発生したものです。三年に発生した死亡事故の内容は次のとおりです。

- ①お年寄りの事故 自転車に乗っていた八十八歳の男性が、一時停止をしないで国道を横断。普通自動車と衝突し死亡。(四月二十八日・国道8号)
- ②飲酒自損事故 酒に酔って自転車で乗っていた五十七歳の男性が、用水路に転落し死亡(十月十三日・国道白根安田線)
- ③自損事故 軽貨物車を運転し

●白根警察署管内交通事故発生状況

区分	昭62	昭63	平元	平2	平3
件数	195	198	181	218	205
死者数	4	3	5	7	5
傷者数	239	244	220	281	256

ていた四十六歳の男性が、ハンドル操作を誤り、中ノ口川に転落し死亡(十月三十一日・国道白根線)

④飲酒事故 酒に酔って普通乗用車を運転していた男性三十七歳が、対向車線で大貨物車と正面衝突。同乗の四十三歳女性とも死亡。(十二月二十二日・国道8号)

運転者のモラルが問われる飲酒運転での事故。重大な過失を犯して運転をすれば、大きな事故につながるのには目に見えています。「自分だけは大丈夫」ということは絶対にならないのです。

追突事故が多い 国道8号

交通事故の発生場所は、何といても国道8号での事故が最も多く、市内での事故の四四％を占めます。この国道8号での事故の約半分は追突です。「道路が広く、ついスピードを上げてしまおう」「視界も良くなき見運転をしまおう」などのことから事故につながるようです。

また、味方村、月湯村の広域農道での事故は、スピードの出過ぎが原因。件数は少ないもののいつたん事故になると、スピードが出ているだけに重大事故になる恐れがあります。広域農道は高速道路ではないのです。

高齢者が関係する 事故が増加

高齢者が関係する交通事故が多く発生しています。交通弱者として、被害者の立場にあった高齢者が、高齢になっても自動車などを運転する人が増えていくことから、事故の当事者になるケースが増えているのです。高齢者の交通事故を防ぐにはどうすればよいのでしょうか。まず、交通量の増加、高速交通体系の整備など、交通環境が大きく変わっていることを認識することが大切です。交通量の少ない昔の感覚のままでは、一時的停止や優先通行を守らずに事故に遭うケースが多くなります。また、年齢とともに心身機能の低下は避けられないことです。視力や聴力、脚力の衰えは、反応速度の低下をもたらします。

しかし、自分では自覚しにくいもの。定期検診や、運転免許センターで自分の反応速度を測るなどの自己管理が望まれます。「あの人ができるのだから自分にも当然できる」となどは決して思わないことです。高齢者は個人差が大きいことを忘れてはなりません。状況によっては、運転を差し控える勇気を持つことも大切なことです。

死亡交通事故多発 今年既に6人死亡

今年に入って白根警察署管内では、既に昨年の死者数を上回る六人が交通事故の犠牲になっています。まだ半年もたないうちに、既に昨年の死者数を上回ってしまったのです。これ以上の犠牲者を出すわけにはいきません。交通安全の徹底を

市民それぞれが誓わなくてははいけません。

白根警察署の小林交通課長は「社会的に交通事故そのものにマンネリ化している。どこに交通事故が発生しても、また事故か」ということぐらいにしか気に留めない。そういう観念が「怖い」と話します。また「いったん事故になれば、当事者間の問題だけでなく、家族や会社をも巻き込んで大変なことになる。後で苦しんでいる人をいっぱい見てきた。毎日握るハンドルには家族の運命も託されている」とも。ゆとりと思いやりの心を持って安全運転に努めるならば、必ず事故は減らせるのです。

本市は市制三十周年を記念して交通安全都市宣言をしました。交通事故のない明るい白根市を目指し、市民一人ひとりの交通安全の輪を広げていきたいと思います。

今年の死亡事故発生状況

前方不注意による横断歩行者との衝突
80歳の男性歩行者が死亡(1月27日・県道白根巻線)

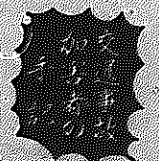
無理な追い越しで路外へ飛び出し(高速暴走) 運転の22歳男性が重体、同乗の19歳男性が死亡(2月11日・月湯村広域農道)

スリップで対向の大型車と衝突(路面凍結) 運転していた38歳男性が死亡(2月25日・県道白根安田線)

前方不注意による自転車との衝突 自転車に乗っていた92歳男性が死亡(4月2日・月湯村広域農道)

飛び出した子供と速度出し過ぎの車が衝突 飛び出した2歳の子供が死亡(4月17日・県道白根黒崎線)

見通しの悪い交差点でバイクと車が衝突 原付自転車に乗っていた67歳男性が死亡(4月28日・月湯村広域農道)



新潟県警から発行された小冊子「三へ行ってしまったの」——交通事故の波紋——から一編を掲載します。

自分だけは絶対大丈夫と 思っていた私

無職・女性(18歳)

私は普通免許を取得し、二カ月くらいたったころ、兄から「車の運転だけは気を付けて」と言われました。私は車の運転を始めて少し慣れてきたころだったこともあり「気を付けて乗っているから絶対に大丈夫よ」と言うように、「事故を起こさそうと思って起すやっつはない。気を付けても絶対に事故を起こさないうんてことはない」と怒鳴られたのです。その後兄から私が生まれる前に、私の姉が幼くして交通事故の被害者となって亡くなったことを初めて聞かされたのです。兄は当時の事故のことを涙を流して話してくれました。事故を目の前で見ている兄の気持ち、父や母の悲しみと悔しさを、私にも痛いほど伝わってきました。十数年過ぎた今でも悲しみが残っている家族を見て、自分は絶対事故は起こしたくないと思っていました。

しかし、免許を取得して四カ月目に私は、交通事故の加害者となってしまったのです。ドーンという大きな音と共に、強い衝撃を受けフロントガラスにひびが入りました。一瞬のことで何が起こったのか分からないまま車から出ると、車の前に老人の男性が倒れており路面に血が流れていました。救急車が来るまでの間がものすごく長く感

じました。病院に行くまでの間、ずっと手を合わせて心の中で生きていてほしいと祈り続けていました。けれども病院に着いたときには、既に亡くなられていたのです。涙があふれて止まりませんでした。兄の言葉が、このとき本当に分かったような気がしたのです。被害者の方の家に初めて行ったとき、申し訳なく顔を上げることさえできませんでした。私は、被害者の家の方にどんなことを言われ責められても、家に上げてもらえなくても相手の方の気持ちを考えれば当たり前だと思っていたのに、家族の方は、私のことを少しも責めませんでした。数日後、相手の方の長男が「お互いつらいけど頑張って生きましよう」と励ましてくれました。

お葬式の時、被害者の家の方々が目を赤くしているのを見たとき、私はとてもやりきれない思いがしました。私は、事故を起こしてしまっただけで、ただ仏様にお参りをするだけで済ませません。被害者の家族の方の悲しみが痛いほど分かりました。また私の父や母、兄のつらさも分かりました。それから父と母のありがたさも分かりました。

事故後、私は道路を歩いていて今までは車に近づいてきても平気で横断したり、車が近くを走っていても別に怖くは思わなかったのですが、今は少しでも車が近くを通ると怖いと思つし、横断もできなくなりました。自分ももしひかれたら加害者になる人がかわいそうだし、加害者の苦しみも他の人に味わせたくないと思うようになりました。

こんな事故は、もう二度と起こしたくありません。自分だけは絶対大丈夫と思っていた「私」。ただ反省するだけです。せつかくの兄の言葉を無駄にしたいです。